



象徵

校章・胸章・校旗

胸章



校章



校章の起源

我が校は真理と平和と希望のペンに
みちあふれ、やがてそれが、がっちり
と固く結ばれて限らない世紀の知慧の星を
目指して永久にはばたく翼となって益々
発展することを象徴している。

一九四六年九月四日制定



校旗

昭和21年(1946)	9月 4日	校章制定
昭和21年(1946)	9月17日	旧校歌制定
昭和30年(1955)	11月12日	校旗製作(10期卒業生寄贈)
昭和40年(1965)		現在の校歌制定

教育目標



本校の教育目標

- 憲法、教育基本法等に則り、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康な人間を育成する。
- (1) 自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる人間を育成する。
 - (2) 豊かな人間性や社会性を身につけ、社会の変化に対応できる人間を育成する。
 - (3) 人権を尊重し、生命を尊び、相互扶助の精神を備えた人間を育成する。
 - (4) 母校を愛し、郷土の文化に誇りをもち、国際協調の精神を大切にする人間を育成する。

校歌

校歌

一、しろがねの水脈のしぶきは さえざえと

とよむ湛水 緑の里わ

世紀にいどむ 知性のとりで

あゝ 竜巻の健児 一千 胸は鳴る

青春の夢 まどやかに

栄あれ 母校 前原高校

二、朝夕のペンのつばさは さえざえと

信と愛との 花咲くところ

嵐に涼む 波濤の健児

あゝ 校塔に 教学 一如 鐘は鳴る

肝高の意気 たからかに

讃えよ 母校 前原高校



旧校歌

一 まつかぜさ
松風 冴えて ほのぼのと

あけむらさき
暁紫の コンセツト

わか けんじ きお た
若き健児の 氣負い立つ

ぶんか みさき
文化の 岬 あゝ前原

二 あか ひ もん つぎ まど
明るい陽の門 月の窓

そのお まるやね
むつみの園生 丸屋根に

こじよう ゆうひ ゆめ
古城の夕日 夢もえて

ぶんか とりで
文化の 砦 あゝ前原

制服



記念碑



本校創立跡記念碑



石碑「肝高」

「きもたか」の意味

勝連城にいた阿麻和利は肝高であったという、この語の意味は語例が少ないので明確な意味は決定しにくいが、我々が直感的に把握されるところでは大空のようにからっと晴れて、わだかまりなく、いわば天空快活で、意気盛んなさまを想像させる。阿麻和利が太平洋を見渡しながら誇らかに城頭に立っている雄姿をこの肝高ということばが暗示しており、もと勝連城跡にあった前原高校の校歌に肝高と云う文句があったが、方言がまずいというような感じはしない

仲宗根政善著
「琉球語の美しさ」より